平安時代

名前

問1　平安時代中期には、紫式部が『源氏物語』を、清少納言が『枕草子』を記すなど、女性による優れた文学作品が数多く誕生しました。このような文学が発展した背景にある、文字の歴史的な変化を説明したものとして最も適切なものはどれか。（2023年 熊本県公立入試 類似）

1. 漢字の音をそのまま借りて日本語を表記する「万葉仮名」が考案され、公式の場でも女性が自由に漢字を操れるようになったため。
2. 漢字を簡略化したり一部を抜き出したりした「かな文字」が普及し、心情や情景を日本語で自由に表現できるようになったため。
3. 仏教の経典を読みやすくするために、漢字の横にカタカナに似た記号を添える記述法が、物語の執筆に転用されたため。
4. 遣唐使によって最新の中国の文字が導入され、それが宮廷の女性たちの間で共通言語として広まったため。

問2　平安時代の建築や彫刻は、当時の信仰と深く結びついていました。当時の代表的な建造物の特徴を説明した資料において、内部に阿弥陀如来像を安置し、壁画などで極楽浄土の様子を再現しようとした藤原氏ゆかりの建物はどれですか。（2019年 静岡県公立入試 類似）

1. 東大寺大仏殿
2. 鹿苑寺金閣
3. 平等院鳳凰堂
4. 法隆寺五重塔

問3　平安時代に紫式部が『源氏物語』を執筆した際の時代背景について述べたものとして、最も適切な説明を選びなさい。（2024年 島根県公立入試 類似）

1. 大陸との交流が盛んになり、最新の唐の文学理論をそのまま取り入れることが奨励された。
2. 仏教を広めるために幕府が平易な文字の使用を命じ、庶民の間で娯楽としての読書が急速に普及した。
3. 遣唐使の廃止にともない、日本の風土や生活に合わせた国風文化が発達し、かな文字による表現が広まった。
4. 武士が政治の実権を握り、素朴で力強い文化が好まれたため、戦の様子を伝える文学が主流となった。

問4　平安時代初期、最澄が唐から伝えた教えをもとに、比叡山延暦寺を拠点として日本に広めた仏教の宗派を何といいますか。（2018年 和歌山県公立入試 類似）

1. 禅宗
2. 浄土宗
3. 真言宗
4. 天台宗

問5　平安時代中期、かな文字が普及したことで独自の文学が発展しました。その中で、清少納言によって執筆された、四季の情景などを鋭い感性で記した日本を代表する随筆はどれですか。（2022年 静岡県公立入試 類似）

1. 竹取物語
2. 枕草子
3. 源氏物語
4. 土佐日記

問6　1086年に子の堀河天皇に位を譲った後、上皇として初めて本格的な院政を開始した人物は誰ですか。（2018年 三重県公立入試 類似）

1. 後醍醐天皇
2. 白河天皇
3. 桓武天皇
4. 聖武天皇

問7　平安時代後期に、現在の岩手県にあたる地域を拠点とし、独自の仏教文化を築き上げた豪族を何と呼びますか。また、その拠点となった地名との組み合わせとして適切なものを選びなさい。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

1. 足利氏 ― 平泉
2. 源氏 ― 多賀城
3. 奥州藤原氏 ― 多賀城
4. 奥州藤原氏 ― 平泉

問8　10世紀の平安時代において、それまでの唐の文化の影響を強く受けた段階から、日本の風土や生活、日本人の感性に合わせた独自の特色を持つ文化が発展しました。この文化を何と呼びますか。（2022年 大阪府公立入試 類似）

1. 安土桃山文化
2. 鎌倉文化
3. 国風文化
4. 天平文化

問9　平安時代初期に最澄によって開かれた仏教について、その後の歴史に与えた影響や特徴を説明した文として正しいものはどれですか。（2024年 愛媛県公立入試 類似）

1. 最澄が開いた天台宗の拠点である比叡山は、後に鎌倉新仏教の開祖たちを多く輩出する修行の場となった。
2. 最澄が開いた天台宗は、貴族の間に深く浸透し、後に法然や親鸞が浄土真宗を開く際の直接的な教義となった。
3. 最澄は、遣唐使として空海と同じ船で唐に渡り、帰国後は空海とともに真言宗を広めることに努めた。
4. 最澄は、都から離れた山奥で修行するのではなく、東大寺などの南都六宗の勢力と協力して政治を支えた。

問10　桓武天皇は、朝廷の支配力を高めるために東北地方へ大規模な軍を派遣しました。このとき、軍の総大将として任命され、蝦夷（えみし）の抵抗を抑えて現在の岩手県に胆沢城を築くなどの成果を上げた人物と、その官職名の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2018年 富山県公立入試 類似）

1. 坂上田村麻呂 ― 征夷大将軍
2. 小野妹子 ― 遣隋使
3. 中大兄皇子 ― 太政大臣
4. 足利尊氏 ― 征夷大将軍

問11　平安時代の中期以降、地方の有力者が自ら開発した土地を中央の有力貴族や大寺社に寄進し、名目上の領主になってもらう動きが広がりました。この仕組みにおいて、寄進を行った地方の有力者の主な目的として最も適切なものはどれですか。（2023年 香川県公立入試 類似）

1. 天皇から直接、新しい農具や肥料の提供を受けること
2. 国司による重い税負担を回避し、土地の支配権を実質的に守ること
3. 土地をすべて国有化し、朝廷の役人として給料をもらうこと
4. 班田収授法に基づいて、土地を周辺の農民へ平等に再分配すること

問12　平安時代後期には、仏教の教えが衰える「末法」の世が来るとする不安から、阿弥陀如来を信仰して死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う考え方が広まりました。藤原頼通が建立した平等院鳳凰堂の背景にもある、この信仰を何というか。（2018年 鳥取県公立入試 類似）

1. 禅宗
2. 密教
3. 浄土信仰
4. 法華信仰

問13　平安時代中期に藤原氏が確立した「摂関政治」において、彼らが政治の実権を握り続けるために用いた最も主要な手段として適切なものはどれですか。（2023年 長崎県公立入試 類似）

1. 中大兄皇子が天智天皇として即位した際のように、律令に基づいた天皇中心の中強集権的な政治改革を主導した。
2. 自身の娘を天皇のきさきとして送り込み、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の親戚（外戚）として政治を補佐した。
3. 地方の有力な武士団を直接組織し、武力によって反対勢力の貴族を排除することで、摂政や関白の地位を世襲した。
4. 天皇の地位を退いた後に「上皇」となり、院庁と呼ばれる役所を通じて、現役の天皇に代わって実権を振るった。

問14　平安時代初期、最澄は唐に渡って仏教を学び、帰国後に比叡山に延暦寺を建立して新しい宗派を広めました。この宗派の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。（2019年 三重県公立入試 類似）

1. 臨済宗
2. 浄土宗
3. 天台宗
4. 真言宗

答え合わせ・解説

問1	答え 2 漢字を簡略化したり一部を抜き出したりした「かな文字」が普及し、心情や情景を日本語で自由に表現できるようになったため。	国風文化の進展とともに「かな文字」が普及したことで、漢字だけでは表現しきれなかった微妙な感情や情景の描写が容易になりました。特に宮廷に仕える女性たちの間でこの文字が積極的に使われたことが、世界的な文学作品が生まれる大きな要因となりました。なお、万葉仮名はかな文字が成立する以前の、漢字をそのまま使った表記法を指します。
問2	答え 3 平等院鳳凰堂	藤原頼通が宇治に建立した平等院鳳凰堂は、当時の貴族が憧れた極楽浄土を地上に再現しようとした建築の代表例です。堂内には定朝が制作した阿弥陀如来像が安置されており、周囲の池や庭園と合わせて、死後の世界である浄土を視覚的に表現しています。
問3	答え 3 遣唐使の廃止にともない、日本の風土や生活に合わせた国風文化が発達し、かな文字による表現が広まった。	894年に菅原道真の建議によって遣唐使が廃止されると、中国の影響を消化しつつ日本の感性に合わせた「国風文化」が成立しました。それまで公的な文書は漢字（真名）で書かれていましたが、日常的な感情や細やかな情景を表現するのに適した「かな文字」が使われるようになり、紫式部らによる物語文学の開花につながりました。
問4	答え 4 天台宗	最澄は804年に遣唐使とともに唐へ渡り、帰国後、比叡山延暦寺を総本山として天台宗を開きました。この宗派は、後に鎌倉新仏教を創始する法然や親鸞、道元、日蓮らが修行した場所としても知られ、日本仏教の歴史において極めて重要な役割を果たしました。
問5	答え 2 枕草子	清少納言は一条天皇の中宮定子に仕えた女性で、自身の観察や感想をまとめた『枕草子』を著しました。これは日本文学における随筆の先駆けとされ、冒頭の「春はあけぼの」という一節が非常に有名です。同じ平安時代に活躍した紫式部が著した『源氏物語』は物語（小説）形式であり、文学のジャンルが異なります。
問6	答え 2 白河天皇	白河天皇は、幼い堀河天皇に位を譲った後も上皇として実権を握り、自らの直属の軍事力として「北面の武士」を置くなどして権力を強化しました。これが約100年続く院政の始まりとなりました。
問7	答え 4 奥州藤原氏 ― 平泉	平安時代末期、東北地方では前九年合戦や後三年合戦などの戦乱を経て、藤原清衡が支配を確立しました。清衡は北上川流域の平泉を拠点として、清衡、基衡、秀衡の3代（および泰衡）にわたって約100年間の繁栄を築きました。多賀城は現在の宮城県に位置する、古代の東北統治の拠点（国府）です。
問8	答え 3 国風文化	894年に遣唐使の派遣が停止されたことを一つのきっかけとして、それまで取り入れてきた大陸文化が日本の自然や生活様式に溶け込み、独自の発展を遂げました。この時期の貴族を中心とした優雅な文化を国風文化と呼びます。
問9	答え 1 最澄が開いた天台宗の拠点である比叡山は、後に鎌倉新仏教の開祖たちを多く輩出する修行の場となった。	最澄が比叡山に開いた延暦寺は、平安時代を通じて日本仏教の中心的な教育機関のような役割を果たしました。後に鎌倉時代に新しい仏教を創始した法然、親鸞、道元、日蓮などの僧侶たちは、いずれも若い頃に比叡山で修行を積んでおり、天台宗は「日本仏教の母」とも呼ばれるほど大きな影響力を持っていました。
問10	答え 1 坂上田村麻呂 ― 征夷大将軍	桓武天皇は東北地方への勢力拡大を重視し、軍事的な成功を収めるために有能な武官である坂上田村麻呂を「征夷大将軍」に任命しました。彼は東北地方へ進撃してアテルイなどの蝦夷の指導者を降伏させ、胆沢城を拠点として朝廷の支配地域を北へと大きく広げました。他の選択肢にある足利尊氏は鎌倉幕府を滅ぼした後の人物であり、時代が異なります。
問11	答え 2 国司による重い税負担を回避し、土地の支配権を実質的に守ること	地方の開発領主たちは、国司からの重税や干渉を避けるため、権威のある貴族や寺社に土地を寄進しました。これにより、税を納めない権利（不輸の権）や役人の立ち入りを拒否する権利（不入の権）を認めさせ、自らの土地支配を安定させようとした背景があります。
問12	答え 3 浄土信仰	社会不安や戦乱への恐れから、南無阿弥陀仏と唱えることで救われるという考えが貴族から民衆へと広まりました。平等院鳳凰堂の内部には美しい阿弥陀如来像が安置され、壁画には極楽から迎えが来る様子が描かれるなど、この信仰が文化に大きな影響を与えたことがわかります。
問13	答え 2 自身の娘を天皇のきさきとして送り込み、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の親戚（外戚）として政治を補佐した。	藤原氏は、自分の娘を天皇の妃（きさき）にし、その間に生まれた皇子を次の天皇に即位させるという手法を取りました。これにより、天皇の母方の祖父（外戚）という立場を築き、天皇が幼いときには「摂政」、成人してからは「関白」という役職に就いて政治の実権を握りました。この仕組みを摂関政治と呼びます。
問14	答え 3 天台宗	平安時代初期、桓武天皇の支持を受けた最澄は、比叡山（滋賀県・京都府の境）に延暦寺を建て、天台宗を広めました。同時期に空海が伝えた真言宗とともに、当時の貴族の間に深く浸透しました。